市内小中学校の適正規模・適正配置の説明会（第3回）

11月8日（日）午前10時～午前11時34分　古巻公民館

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
1	第2回説明会において、市から素案として「南北3分割モデル」と「河川区切りモデル」が示されました。今後の検討は、そのどちらかを選ぶように進むのでしょうか。	第2回説明会でお示しした素案の2つのモデルは、皆さんからの意見を伺うための「たたき台」としてお示ししたものです。説明会等でいただいたご意見を参考に素案を修正し、新たな案を作成することを想定しています。
2	現在の学校がある環境に合わせて居住地選びなどをしているため、適正配置後の学区はできるだけ早く情報がほしいです。それによって、学童を使ったり、祖父母に子どもを預けたりの検討ができます。	「学校の適正規模・適正配置」の取組の周知は、広報しぶかわや市のホームページ、市の公式SNSのほか、児童生徒の保護者向けのメール（すぐーる）、未就学児の保護者向けのチラシ配布等で行いました。 「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」の策定期間延長に合わせ、より広く関係者の方に、この取組の周知を図りたいと考えています。また、「しぶかわ出前講座」を活用して、個別に説明を希望される団体もありますので、今後実施する地域説明会と合わせて、内容をご理解いただいた上で意見交換等を進めていけるように努めます。 なお、これまでに行った説明会の資料やいただいた意見等の概要とそれに対する市の考え方は、説明会に参加できなかった方への情報周知の手段のひとつとして市ホームページで公表しております。
3	ご意見を聞く中で、一般の人にももっと周知する必要があると感じました。	
4	あまりにも説明会の参加人数が少なくてびっくりです。大事な問題なのにPRが問題ないのか疑問です。教育問題は人生の中でも重要なことと思います。	
5	市の方々は大変かもしれませんが、保育園、幼稚園ひとつひとつで説明会するのはどうでしょうか。	
6	説明会に子育て世代が少ないのは、当事者意識がないからだと思います。どの年代の子ども達が関わることかを強調してお知らせする必要があると思います。現在高学年の子を持つ保護者であれば、自分たちの子どもが卒業した後のことと捉えていていると思います。 また、「適正規模・適正配置」というタイトルの見え方の工夫も必要だと思います。 意見を言える場所があって、それを吸い上げようとする環境がある、これからの子どもや保護者のことを考える人が増えてほしいと思うので、情報の発信の仕方を工夫してもらいたいです。	

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
7	統廃合の話が進むと、不登校や多様な学び方への対応が必要になると思います。 例えば、統廃合によって使わなくなった学校は、地域の団体等が子どもの居場所の確保として活用することも考えの1つとして検討を進めてもらいたいです。	資料10ページ⑤のとおり、「学校の適正規模・適正配置」を進める上で、子どもの個性や特性に対応することも検討を要する論点と捉えています。 本市の通級指導教室等については、自校通級と他校通級が併存しております。「学校の適正規模・適正配置」によって学校が集約されることを考えれば、全ての学校に通級指導教室を設置できることが望ましいと考えています。設置に当たっては、県との協議をしながら進めていく必要があり、渋川市を含めて他自治体も多くの要望をしていることから、直ちに実現できるものではありませんが、引き続き要望をしながら、保護者の皆さんが安心して子どもを通わせられる環境を作りたいと考えています。 また、他自治体では、不登校の児童生徒に配慮し、教育課程を柔軟に編成する「学びの多様化学校」を置くという事例もあり、本市においても、「学校の適正規模・適正配置」を進める中で、子どもの個性や特性に応じた学校の設置について、研究・検討したいと考えています。 なお、閉校後の学校の利活用については、それぞれの施設の状況に合わせて検討する必要があることから、閉校の対象となる学校が決まることで、その検討が進むものと考えております。
8	情緒学級や通級学級について、適正配置によって学校が遠くなると、通学に関する子どもへの負担や送迎等による保護者への負担が生じると思います。場合によっては仕事が続けられなくなるようなことも発生するかもしれません。 その場合の受け皿や子どもへのフォローなどはどのようにお考えでしょうか。	
9	適正規模・適正配置によって不登校になる可能性が増えると思います。	
10	保育所、幼稚園に入園する際に、小学校で一緒の友達がいた方が良いという保護者もいるので、その点も考えていただきたいです。	保育所や幼稚園は、居住地区に関わらず利用したい施設を申し込むことができるため、必ずしも小学校で一緒に通学する子ども同士が同じ施設を利用することにはなりません。 しかし、小学校から中学校に進学する際には、居住地区によって定められた学区に基づいて通学することになるため、一定の考慮が必要と考えております。 これまでの説明会等でも、同じ小学校の子どもが別の中学校に進学すること（分散進学）を避けてほしいという意見が出ており、市としては、小学校で構築した子どもの友人関係等が維持できるよう分散進学を極力避けられるような中学校の配置を検討したいと考えています。

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
11	在学中に統廃合が行われ、転校対象となった場合は、転入先の体育着などの購入などに猶予がほしいです。新しく揃えるのは金額的に負担になると思います。	体操着や制服等の費用負担や切り替え時期については、統合校同士の協議会の中で協議することになると思います。 これまでの市の統廃合の事例をみると在校生は、統合前の学校のものを使用できるようにして、新一年生から新しいものを揃えてもらう方法で家庭の負担を考えた形することも想定されます。この場合には、在校生は、成長段階によって買い換えるタイミングがあれば、そこで新しいものに切り替えることになると想定しています。
12	バス等の通学が増加するのであれば、学校に着いたこと・学校を出たことを保護者にメールなどでお知らせするシステムが必要であると思います。保護者の目が離れる時間が増えるので、せめて学校にいることがわかるようにしてほしいです。 また、子どもにGPSや通話のみのツールを持たせてOKとしてほしいです（もちろん学校内は使用禁止として）。	学校の適正規模・適正配置により、バス通学等が増えることを想定しておりますので、児童生徒及び保護者の負担を考慮した検討を進めたいと考えています。また、子ども達の安全な通学を確保するためにも、バス通学における子どもの乗降確認は必要なことと考えておりますので、実施方法を含め、今後研究・検討させていただきます。
13	通学バスは数時間ごと又は数本の運行にしてほしいです。	今回検討している適正配置により、通学バスで通学するケースが増えるため、学校の適正規模・適正配置を進める中では、地域やエリアの特性に合わせた通学方法等の検討が必要です。 再配置後の通学バスルートの検討や利用基準につきましては、学校の適正規模・適正配置の進捗に合わせて検討を進めます。 なお、現行制度では通学バスの利用に当たっての保護者の費用負担はありません。また、遠距離通学として路線バスを使った通学をしている場合には、バスの定期代を満額補助しています。
14	適正配置によりバス通学が増えますが、保護者が費用を負担するのでしょうか。 また、バスに乗り遅れた場合は、保護者が送迎することになるのでしょうか。	
15	小規模の学校で、学年を超えて交流していることは良いことと思います。それを適正規模化する必要があるのでしょうか。小規模校は小規模校のままで良いと思います。	適正規模・適正配置を進める発端には、「子どもの教育環境の改善」や「子どもの選択肢を確保すること」があります。それには、一定の規模（人数）が必要になります。また学力や心の成長には、一定の学級数が必要という考えもあります。 子どもの人数が減りすぎると、同学年でのグループ学習ができず、異学年の子どもとの交流を増やすことで補わざるを得ない状況になります。それに対して、一定の規模がある学校では、同学年との交流に合わせて、異学年との交流ができる状況になります。今後、更に子どもが減る見込みがあることから、小規模校では、子ども達の学びを確保することが非常に難しくなると考えられます。

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
16	「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針（概要版）」に、「市内の全ての学校施設について、改築・長寿命か改修等を実施した場合、施設整備費用として約1，040億円必要」と記載されています。 建物によって必要な経費が変わると思いますが、統廃合するとしても市の財政を圧迫するということを危惧しています。	現状の23校（小学校14校、中学校9校）を維持し、改修等を実施した場合、施設整備費用として約1，040億円が必要となると見込んでいるものです。学校施設の改修等の費用については、将来的な市の財政への影響が非常に大きいものになると考えられるため、できるだけ既存施設を有効利用したいと考えています。
17	義務教育学校の設置については、一部地域に設置するので良いと思う。強みにしたら、その学区に引っ越そうと思う若い世代もいると思います。	義務教育学校は、中1ギャップへの対応や特色ある教育の実施、教職員の意識向上など、様々なメリットがあると言われいます。その反面、転校時の不便さ（従来の教育課程と異なる部分があることによる）や小学校から中学校に進学する際の気持ちが薄れる（中1ギャップの解消と対称）などのほか、実務の面で教職員の負担増があるようです。 また、一部地域への設置の場合、学区内の人が「義務教育学校に行きたくない」パターンと学区外の人が「義務教育学校に行きたい」パターンなどが想定され、不公平になるという意見もいただいています。 適正規模・適正配置を考える中で、義務教育学校の導入については、色々な意見を含めて検討・研究が必要であると考えています。 （参考） 昨年度策定した「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」では、適正な規模を達成することを前提としているため、複数学級にならないなど、小規模校のデメリットを解消しきれない「適正規模化を伴わない義務教育学校の導入」は想定をしないという考え方をまとめています。
18	部活動を考えると、渋川の中心に運動公園がある方が良いと思います。陸上競技では、公認のグラウンドが伊香保下にありますが、渋川市の片寄った位置にあり、大会があっても移動に大変です。ということは、日常の使用には移動が大変ということになります。300mトラックでも良いので、市の中心の中学校の近くに運動公園を設けていただきたいです。教育にも役立つと思います。	再配置後の学校の配置によって関連施設の見直しも必要であるという趣旨のご意見として承ります。

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
19	この取組の検討を進めるに当たって、地域の方々が学校の現状を見られるような機会があると良いと思います。 学校の現状を見て、適正規模・適正配置によって地域がどのように変わっていくのかというイメージが持てるような周知の仕方が良いと思います。	地域への周知には、学校だよりで紹介していることが挙げられます。以前は、学校公開日として親族以外の地域の方にも学校を見ていただく機会がありましたが、子どもの安全管理の面から不特定多数が出入りする学校公開日の様な取組は現状で実施しておりません。一部の学校で、特定の日時に学校の状況を見ていただく取組をしている学校もありますが、多くはない現状です。 今回は学校の適正規模・適正配置の検討となり、教育の分野に焦点があたった内容になりますが、現在、これと並行するかたちで、「総合計画」の見直しも進んでおります。総合計画では、教育の分野も含めた、市全体としてどのようなまちづくりをするか検討することになります。学校の適正規模・適正配置の検討を進める上では、総合計画を含む、他の市の施策等の連動も図りながら対応したいと考えています。
20	学校統合することと同時に学童などの人数確保も行ってほしいです。	放課後児童クラブ（学童保育所）を代表する方の集まりに説明の機会をいただいて、学校の適正規模・適正配置の検討についてご説明させていただいたことがございます。 学校の適正規模・適正配置が進み、学校の数が減ることで、放課後児童クラブ（学童保育所）の在り方も変化することが想定されます。 具体的な検討は、適正規模・適正配置により統廃合となる学校の見込みが立ったのちに進められる事案と考えておりますが、現時点（検討段階）から放課後児童クラブ（学童保育所）の所管課（こども課）と連携を図り、先行事例の研究も含めて検討します。
21	学校の適正配置については、もう少し周知の仕方を考えてほしいと思います。まずは、子ども達目線でのメリット・デメリットを、目で見てわかるように伝えて、子ども達の意見を拾ってほしいと思います。それを大人が見てどう感じるのか、大人の意見を聞いてほしいと思います。これからの渋川市をつくっていくのは今いる子ども達です。	適正規模・適正配置を進める発端には、「子どもの教育環境の改善」や「子どもの選択肢を確保すること」があります。子どもたちが望ましい環境で学び続けることができるよう、学校の適正規模・適正配置を進めるためには、当事者となる子どもの声も聞く必要があると考えています。 令和５年度には、児童生徒を対象にしたアンケートを実施しました。昨年からは、しぶかわキッズオピニオンというワークショップにおいて、中学生にどんな学校にいきたいか等を検討いただく機会を設けました。 今後、「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」により統廃合する学校の目処が立った際には、「統合後の学校をどうしたいか」等を子ども達に聞く機会を設けたいと考えています。
22	これから保護者になる可能性がある若い世代にアンケートを取る予定はありますか。	これまでの説明会等の意見交換において、「子どもの検診」や「はたちを祝う会」などで若い世代に周知することの提案をいただき、現在実施方法等を検討しているところです。
23	子育てしやすく、住みやすい市、地域として子育てできる環境作りを期待します。	－
24	子ども達がより良い方向性になり、楽しい学校生活ができるよう希望します。色々大変ですが、頑張ってください。	